

日英多義語の認知意味論的分析： 「クロイ(黒い)」と“black”

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-01-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 皆島, 博 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/10311

日英多義語の認知意味論的分析

—「クロイ（黒い）」と“black”—

皆 島 博*

(2017年 9月29日 受付)

内容要約 本論は、認知意味論の枠組みにおいて、日本語の多義語「クロイ」と英語の多義語“black”の多義構造を分析する。また、日英対照言語学の観点から、両語の意味論的類似点と相違点についても明らかにする。

キーワード：多義語，多義性，意味拡張，対照言語学，認知意味論，放射状カテゴリー

0. はじめに

本論は、日本語と英語の色彩形容詞「クロイ（黒い）」と“black”を取り上げ、その多義構造について、認知意味論と対照言語学の観点から考察する。「クロイ」と“black”は、色彩語彙の中でも、特に基本的なものであり、意味やそれに結び付いたイメージにおいても類似点が多いように思われる。また、それぞれ少なくとも次のような3通りの語義で用いられる点で多義的といえる：

(1) 色彩について：〈黒色の〉

a. 黒い喪服

b. black tuxedos (黒いタキシード)

(2) 人間について：〈邪悪な〉

a. 腹の黒い政治家

b. a black-hearted merchant (腹の黒い商人)

(3) 物事について：〈不正な〉

*福井大学教育・人文社会系部門総合グローバル領域

- a. 黒いうわさ
- b. a black market（闇市場）

認知意味論では、このような語の多義性は意味拡張の結果生じたものと捉える。すなわち、最も基本的な意味（基本義）を起点として、認知的な動機付け（メタファー（隠喩）、メトニミー（換喩）、シネクドキ（提喩））を経て、語はさまざまな語義を獲得していったと考える。したがって、本論では、「クロイ」と“black”に関して、次の4点を明らかにすることを目的とする：

- ①「クロイ」と“black”の複数の意味（語義）の区別
- ②「クロイ」と“black”のプロトタイプの意味（基本義）の仮定
- ③「クロイ」と“black”の意味拡張の動機付け（メタファー、メトニミー、シネクドキ）の認定
- ④「クロイ」と“black”の多義構造における類似点と相違点の指摘

1. 放射状カテゴリーとしての多義語

認知意味論では、人間を、意味を読み取り、意味を発信する主体とみなし、「意味」については、人間の身体性（感覚・知覚・認知など）の総合的な営みを通じて概念化されたものと考えられる。そして、概念化することはカテゴリー化（範疇化）することと同じであるという立場を取る。

カテゴリー化とは、現実世界に存在するさまざまなモノをグループ分け（分類）して、ひとまとめにして捉える心の働き（認知）をいう。認知意味論以前（アリストテレスの時代）の古典的カテゴリー観では、カテゴリーのすべてのメンバーがメンバーであるための必要十分条件を満たす集合と定義され、他のカテゴリーとの境界線も明確なものと考えられていた。これに対して、認知意味論のカテゴリー観では、カテゴリーのメンバーの必要十分要件は、[+（プラス）]か[-（マイナス）]かの二項対立に基づいて決定されるのではなく、メンバーの間に中心的メンバーと周辺のメンバーの区別が存在するだけで、カテゴリーとカテゴリーの間には明確な境界線は存在しないと考える。認知意味論のカテゴリー観では、カテゴリーには次のような特徴があることが提案されている（Wittgenstein 1978；Labov 1973；Rosch 1975；Lakoff 1987）：

- ① カテゴリーのメンバーは家族的類似を示す
- ② カテゴリーのメンバーには典型的事例が存在する
- ③ カテゴリーのメンバーはプロトタイプ効果を示す

まず、「家族的類似」とは、カテゴリーの全メンバーは共通の性質を持っているわけではないが、各メンバーが部分的にどこかで共通の性質を持つことによって、カテゴリー全体の統一性が保たれていることをいう。次に、「典型的事例」とは、カテゴリーのメンバーの中には、最もわか

りやすい例、つまり、代表的なメンバーであるプロトタイプが存在することをいう。最後に、「プロトタイプ効果」とは、カテゴリーのメンバーは均質なものではなく、典型的なものとそうでないものとに分かれ、メンバー間でカテゴリーへの帰属度に程度差が存在していることをいう。

ある語が相互に関連した複数の意味を持っていることを多義性といい、また、そういう語を多義語というが、認知意味論では、多義語を一種のカテゴリー（複数の語義の集合）と考える。したがって、多義語のカテゴリーは、そのメンバーとしての多義語の個々の意味から構成される。例えば、『新選国語辞典』の「ヒト」の項目には次のような意味が挙げられている：

- ①人類。人間。
- ②権利・義務の主体である自然人。
- ③他人。世間の人。
- ④おとな。成人。
- ⑤しかるべき人。優れた人。
- ⑥人物、性質、人柄。

つまり、「ヒト」という多義語のカテゴリーでは、上記①～⑥の各語義がカテゴリーのメンバーということになり、カテゴリーを構成するということは、カテゴリーの3つの特徴を示すということになる。したがって、カテゴリーのメンバー（各語義）の間には、典型的な意味（プロトタイプ）とそうでない意味（非・典型的な意味）との違いが存在し（プロトタイプ効果）、全く同一の意味はないが、部分的に類似した意味が混在することによって、カテゴリー全体としての統一を保っている（家族的類似）と考えられる。

このように、一つの語が多義性を獲得することを、認知意味論では意味拡張というが、それはカテゴリー拡張の結果生じたものとする（Lakoff 1987；Sweetser 1990；Taylor 1995）。認知意味論では、多義語というカテゴリーは、古典的カテゴリー観の要件を満たすものではないので、そこには中心メンバー（プロトタイプの意味）とそれ以外の周辺的メンバーとが混在することになる。なお、プロトタイプの意味（基本義）とは、複数の意味の中で最も基本的な意味のことであるが、次のような特徴をもつ（Dirven and Verspoor 1998；初山 2002；瀬戸 2007a；高橋 2010）：

- ①文脈なしで最も想起されやすく、身体性・具体性が高い。
- ②言語習得の早い段階で獲得される。
- ③他の意味への意味拡張の起点となる（転義との関連性を自然に説明できる）。
- ④使用頻度が高いことが多い。

- ⑤通時的に最初に確立されたものである場合がある。
- ⑥慣用表現や比喩で多用される。

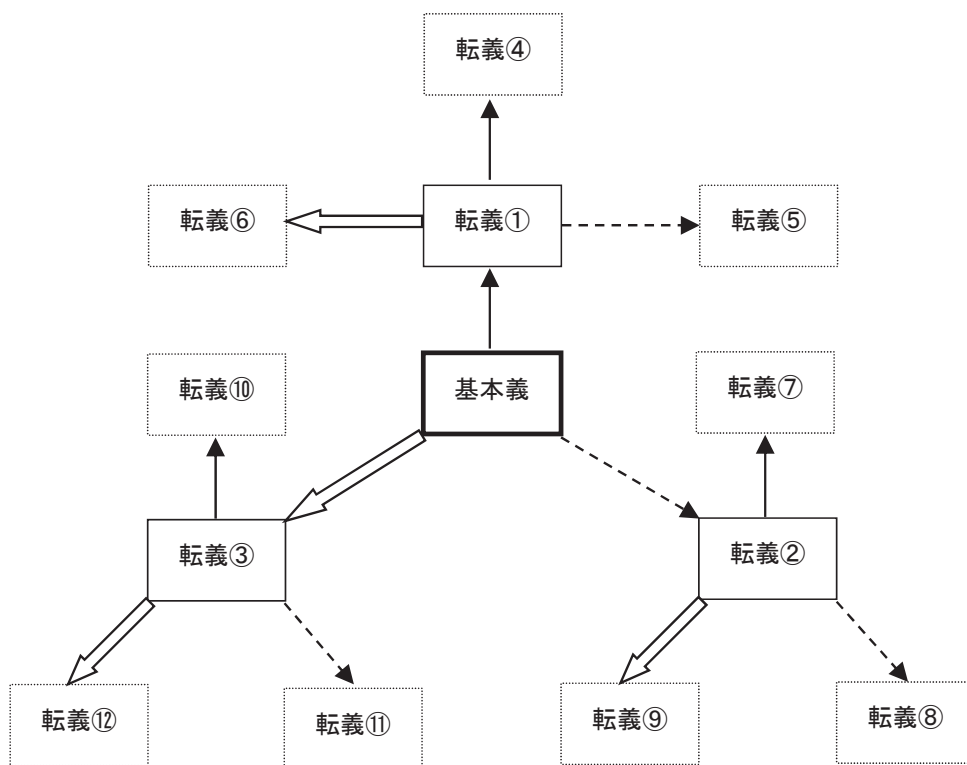
カテゴリー拡張では、この基本義を起点としてメタファー、メトニミー、シネクドキといった認知的動機付けに応じて、複数の方向へ語義の意味拡張が展開していく。このようなカテゴリー拡張の最も一般的な形態が放射状カテゴリーと呼ばれるものであるが、放射状カテゴリーは、Lakoff (1987) で提示されたカテゴリー・モデルで、ある中心（プロトタイプ）的メンバーを取り囲むように2次的に周辺（非プロトタイプ）的メンバーが位置づけられ、その2次的なメンバーを中心に、さらに3次的に周辺のメンバーが位置づけられるというように、結果として、幾重もの円が放射状に拡張していくカテゴリーをいう（辻 2002: 238）。

認知意味論において、このようなカテゴリー拡張を引き起こす要因（動機付け）として主要な役割を演じるのが「メタファー」「メトニミー」「シネクドキ」と呼ばれる3種類の比喩（言葉のあや）である。これらについて、佐藤（1992）、瀬戸（1997）、瀬戸（2007a, b）、初山・深田（2003）にしたがい、次のように定義する。

- ①メタファー：二つの事物の間に存在する何らかの類似性に基づいて、一方の事物を表す形式を用いて他方の事物を表す。
- ②メトニミー：二つの事物の間に存在する何らかの隣接性に基づいて、一方の事物を表す形式を用いて他方の事物を表す。
- ③シネクドキ：一般的な意味（類概念）を持つ形式を用いて特殊な意味（種概念）を表す、逆に、特殊な意味（種概念）を持つ形式を用いて一般的な意味（類概念）を表す。

最後に、放射状カテゴリー（意味のネットワーク）のモデルを示すと次のようになる（辻 2002: 238；瀬戸 2007a: 5；瀬戸 2007b: 41 を参考に作成）。なお、図で実線矢印はメタファーに、破線矢印はメトニミーに、二重線矢印はシネクドキに動機付けられた意味拡張を表す。

図1 放射状カテゴリーのモデル



上のモデルで、中心に位置する「基本義」が第1次メンバー（プロトタイプ）で、そこから、それぞれ、メタファー、メトニミー、シネクドキによって、〈転義①〉〈転義②〉〈転義③〉の第2次メンバーへとカテゴリー拡張をしている。さらに、〈転義①〉から、それぞれ、メタファー、メトニミー、シネクドキによって、〈転義④〉〈転義⑤〉〈転義⑥〉の第3次メンバーへとカテゴリー拡張をしている。〈転義②〉と〈転義③〉からのカテゴリー拡張についても同様である。ただし、これは多義構造の放射状カテゴリーのモデルなので、すべての多義語がこのような意味拡張のプロセスをたどるということではない。

2. 日本語「クロイ」の多義構造

2.1 「クロイ」の複数の意味

ここでは、「クロイ」の複数の意味（語義）の区別を行うが、その際、指針となるのは国語辞典における意味の分類と記述である。以下、3種類の国語辞典の意味の記述を比較する。

(4) 広辞苑（第五版）

- a. 墨のような色である。
- b. 濃紫・褐色・にび色などの，黒っぽい色にいう。
- c. 日に焼けている。
- d. よごれている。きたない。
- e. 悪い。不正である。公明でなく悪心がある。

(5) 大辞林（第三版）

- a. 黒の色である。墨のような色だ。
- b. 黒みがかっている。黒っぽい。
- c. 犯罪などの容疑が濃い。不正が感じられる。

(6) 大辞泉（第二版）

- a. 墨のような色をしている。
- b. 黒みがかっている。黒に近い色である。
- c. 汚れて黒ずんでいる。きたない。
- d. 犯罪・不正の疑いが強い。
- e. 心がよこしまである。邪悪である。
- f. 不吉である。
- g. その道に熟練している。くろうとである。

以上，3つの国語辞典における「クロイ」の意味の分類と記述について，同類のものはまとめて再整理してみると，次のように8通りに区別できる。

(7) a. 黒の色である。墨のような色である。

- b. 黒っぽい。黒みがかっている。黒に近い色（濃紫・褐色・鈍色など）である。
- c. 日に焼けている。
- d. 汚ない。汚れている。汚れて黒ずんでいる。
- e. 悪い。邪悪である。公明でなく悪心がある。心がよこしまである。
- f. 不正である。不正が感じられる。犯罪・不正の疑いが強い。犯罪などの容疑が濃い。
- g. 不吉である。
- h. 玄人である。その道に熟練している。

上記のように，国語辞典の記述を再整理した結果をもとに，「クロイ」に対して最終的に次のよ

うな7つの意味（基本義と転義）を区別する¹⁾。「クロイ」は一義的には色彩形容詞であるので、意味拡張の起点として、白色と対極にある最濃色としての〈黒色の〉を基本義として仮定する。

①基本義〈黒色の〉：概念 {墨・煤・石炭などのような色である}²⁾

- (8) クロイものには何がありますか？カラス、闇夜、スス、炭、墨、石炭、鉛筆の芯、自動車のタイヤなどですね。黒は可視光線のすべての波長の光を吸収するので、光が反射して目まで届かないのでクロイのですね。

<http://www.kiriya-chem.co.jp/q&a/q67.html>

②転義〈濃色の〉：概念 {褐色・鈍色・濃紫色など、黒みがかった、黒に近い色である}

- (9) 黒ビールがクロイ色（褐色）や濃色なのは、高温で焦がしてクロク（褐色）になった麦芽を使用して醸造しているためです。

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1312381703

- (10) 初めて見る冬の日本海は、大荒れの吹雪だった。「青い空と青い海」、地中海のように、ブルーの濃淡が美しいのと対照的に、「クロイ海とクロイ空」（鈍色）、凝視しているとアヤシイ気分になる。

https://www.westjr.co.jp/company/info/issue/bsignal/08_vol_118/essay.html

- (11) 私の目は、ちょうどアイラインを入れる部分にかなり濃い紫（ぱっと見は黒？）のあざが出ています。昨日は青あざだったので次の日はクロク（濃紫）なるよ〜と周りの人にも言われていたので普通のことだろうと思っていたのに異常な症状に入っているなんて…。ちょっと心配です。

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1130864526

③転義〈日焼けした〉：概念 {強い日光を長く浴びたことによって、濃い肌の色をしている}

- (12) 昔は、日焼けで真っ黒になることが健康になることだと考えられて、子供は昼寝の時間を除けば、日に当たるために、昼間は外でソフトボールをしたり、近くの川で泳いだり、蟬取りやトンボ取りをして遊んだものである。そして、9月1日に登校した時は、肌の色の黒さを競い合い、クロク日焼けした肌を自慢したほどである。

http://natunzoibonto.com/uid/0014_

④転義〈汚れた〉：概念 {衣類やものなどが，黒ずんでいて不潔な感じがする}

- (13) この頑固な汚れであるワイシャツの襟汚れはいったい何によって発生しているのかというと，毛穴から出る「皮脂」が原因になっているのです。襟汚れがクロイのは，皮脂が酸化しているためなのです。

<https://bizz-men.net/how-to-wash-shirt.html>

⑤転義〈邪悪な〉：概念 {悪い考えを抱いていて，よこしまなことやずるいことを行っている感じがする}

- (14) 腹がクロイのは画策する人（悪いことだと認識したうえで実行する人）。性格悪いのは天然（悪いことしてると自覚がない人）

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1386372978

⑥転義〈不正な〉：概念 {罪を犯したり法に反するなど，悪いことをやっていそうな疑いがある}

- (15) 田中元首相と言え，お金がらみのクロイ噂があった人ですが，そういう人だからこそ，こういう発想ができたのでしょう。

<http://shirousagi.hatenablog.jp/entry/sekenryoku/>

⑦転義〈不吉な〉：概念 {いやなこと，恐ろしいこと，悪いこと，不安なことなどを想起させる}

- (16) 当時は，タイ・バーツ危機の頃で，アジアの経済成長が『奇跡』ではなく『幻』であった「身内資本主義（クローニー・キャピタリズム），開発主義経済成長の限界」などが喧伝され，ASEAN諸国の前途にクロイ影が覆っていた時代でした。

<http://career2013.blog.fc2.com/blog-date-201301.html>

2.2 「クロイ」の意味拡張とその動機付け

【第1次拡張】

シネクドキによる拡張：①基本義〈黒色の〉⇒②転義〈濃色の〉

「クロイ」の意味拡張の一つはシネクドキによるものである。「黒色」そのものではないが，さまざまな「濃い色」を最も濃い色である「クロイ」で代表させているからである。つまり，各種

の濃い色は「濃い色」というカテゴリーの構成員と考えられるからである。黒色は色調が濃い色であるが、黒色よりも色調が濃くないさまざまな色が存在する。そのさまざまな濃い色を「種」と捉えれば、それらが含まれうる「類」としての「クロイ」という最も濃い色のカテゴリーを想定することができる。したがって、この意味拡張はカテゴリーの包含関係に動機付けられたシネクドキによるものである。

メタファーによる拡張：①基本義〈黒色の〉⇒⑤転義〈邪悪な〉、⑥転義〈不正な〉、⑦転義〈不吉な〉

次は、メタファーによる意味拡張である。つまり、モノの色彩を描写する形容詞「クロイ」は、プロトタイプ的には「視覚」の意味領域において用いられる。したがって、「視覚」以外の意味領域への意味拡張はメタファーということになる。人物（「腹がクロイ」の「腹」も一種のメタファー）、行為、出来事（「クロイ影」の「影」も一種のメタファー）などの特にネガティブな側面や属性について、本来は色彩形容詞である「クロイ」を「色彩」以外の意味領域で用いているので、これらの意味拡張はすべてメタファーによって動機付けられているといえる。

【第2次拡張】

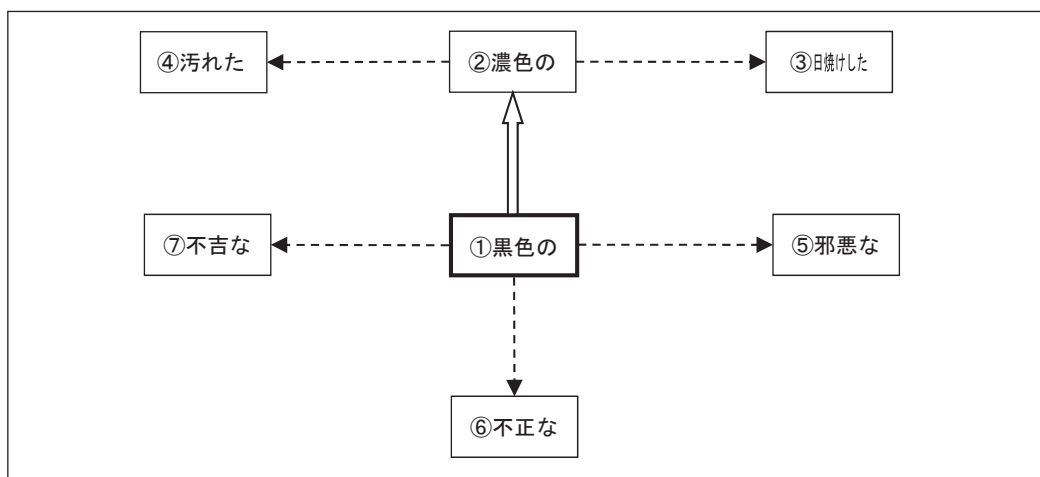
メタファーによる拡張：②転義〈濃色の〉⇒③転義〈日焼けした〉、④転義〈汚れた〉

第2次拡張もメタファーによるものである。まず、転義〈濃色の〉から転義〈日焼けした〉への意味拡張では「クロイ」は「色彩」ではなく「紫外線で皮膚が炎症を起こした状態」を描写している。また、「クロイ」の「色が濃い」という特性は「肌の日焼け」の特性との類似性（共通性）も示す。次に、転義〈濃色の〉から転義〈汚れた〉への意味拡張では「クロイ」は「色彩」ではなく「衣類などの不潔さ」を描写している。また、「クロイ」の「色が濃い」という特性は「襟などの汚れ」の特性とも類似性（共通性）を示す。いずれも「色彩」以外の意味領域への拡張なので、（共感覚）メタファーであるといえる。

2.3 「クロイ」の意味のネットワーク

「クロイ」の意味拡張のプロセスを放射状カテゴリーとして図示すると次のようになる。なお、破線矢印はメタファーを、二重線矢印はシネクドキを表す。

図2 「クロイ」の放射状カテゴリー



3. 英語“black”の多義構造

3.1 “black”の複数の意味

ここでは，“black”の複数の意味（語義）の区別を行うが，その際，指針となるのは英英辞典・英和辞典における意味の分類と記述である。以下，3種類の辞典の意味の記述を比較する。

(17) ルミナス英和辞典

- a. 黒い，黒色の
- b. 真っ暗な，非常に暗い
- c. (皮膚の色の) 黒い；黒人の
- d. (コーヒー・紅茶が) ブラックの，ミルクもクリームも入れない
- e. (手・衣服などが) よごれた，汚らしい
- f. 陰鬱（いんうつ）な；暗澹（あんたん）とした，不吉な；(ユーモア・風刺などが) 冷笑的な，毒を含んだ
- g. 腹を立てた，怒った
- h. 腹黒い，邪悪な

(18) *MacMillan English Dictionary for Advanced Learners*

- a. of darkest color: having the darkest color, like the sky at night when there is no light
- b. of a race with dark skin: black or Black belonging or relating to a race of people with dark skin, especially people whose families were originally from Africa
- c. with no milk in it: tea or coffee that is black has no milk in it

- d. involving something bad/sad: making people feel unhappy or lose hope
- e. showing anger/sadness: showing angry or unhappy feelings
- f. about unpleasant things: relating to sad or unpleasant things such as death or illness
- g. evil/cruel: literary evil or cruel

(19) *Oxford Advanced Learner's Dictionary*

- a. having the very darkest color, like coal or the sky at night
- b. without light; completely dark
- c. belonging to a race of people who have dark skin; connected with black people
- d. without milk
- e. very dirty; covered with dirt
- f. full of anger or hatred
- g. without hope; very depressing
- h. evil or immoral
- i. dealing with unpleasant or terrible things, such as murder, in a humorous way

以上、3つの辞典における“black”の意味の分類と記述を同類のものはまとめて再整理してみると、次のように9通りに区別できる。

- (20) a. 黒い。黒色の。炭のような。光が全くない夜空のような最も暗い色をしている。
 b. 真っ暗な。非常に暗い。光がない。
 c. (皮膚の色が) 黒い。(特にアフリカがルーツの) 濃い肌の色をした黒色人種に関する。
 d. (コーヒー・紅茶が) ブラックの。ミルクやクリーム抜き。
 e. (手・衣服などが) 汚れた。汚らしい。汚れて覆われた。非常に不潔な。
 f. ブラックユーモアの。(冗談・風刺などが) 冷笑的な、毒を含んだ。(死や病気のような) 悲しいこと。不愉快なことに関係している。(殺人のような酷いことや恐ろしいことについて) 滑稽さを交えて取り扱っている。
 g. 不機嫌な。腹を立てた。怒った。憎しみにあふれた。悲嘆や不愉快な気持ちを表明した。
 h. 邪悪な。残酷な。非道な。腹黒い。
 i. 不吉な。絶望的な。陰鬱な。暗澹とした。希望がない。人を不幸にするような。とても憂鬱な。悪いこと、悲しいことを含んだ。

上記のように、辞典の記述を再整理した結果をもとに、“black”に対して最終的に次のような9つの意味(基本義と転義)を認定する。“black”は一義的には色彩形容詞であるので、意味拡張の

起点として、白色と対極にある最濃色としての〈黒色の〉を基本義として仮定する。

①基本義〈黒色の〉：概念 {煤や石炭のような、光が全くない夜空のような最も暗い色をしている}

(21) **Black** coal is so called because of its **black** color. It varies from having a bright, shiny luster to being very dull and from being relatively hard to soft. (ブラック・コールはその黒い色のためにそう呼ばれます。それは明るい、光沢のあるつやを有するものから非常に鈍い色のものがあります。それから、比較的硬いものから柔らかいものまであります)

http://www.australianminesatlas.gov.au/education/fact_sheets/coal.html

②転義〈真っ暗な〉{非常に暗い、光がない、完全に闇である}

(22) It was a cold **black** night and the rain was falling down. (寒い真っ暗な夜だった。そして雨が降っていた)

<http://www.azlyrics.com/lyrics/garymoore/coldblacknight.html>

③転義〈黒人の〉：概念 {主にアフリカを起源とする、皮膚の色が濃いのが特徴の人種に関する}

(23) Ultimately I wait for the day when African-American (aka **Black**) Literature is not considered a genre/category unto itself. (究極的には私はアフリカ系アメリカ (別名黒人) 文学がそれ自体で一つのジャンル／カテゴリーとみなされない日が来るのを待っています)

<http://lineaday.blogspot.jp/2009/08/black-literature-dead-or-alive.html>

④転義〈コーヒー・紅茶が〉〈ブラックの〉：概念 {コーヒーや紅茶にミルクやクリームが入っていない}

(24) Coffee with cream cools about 20% slower than **black** coffee, for three reasons: 1. **Black** coffee is darker. Dark colors absorb heat faster than light colors (just think about wearing a black T-shirt versus a white T-shirt on a hot, sunny day). (クリーム入りのコーヒーは、ブラック・コーヒーよりも約 20 % 遅く冷めますが、三つ理由があります：1. ブラック・コーヒーが色が濃い。濃い色は明るい色より熱を速く吸収します (熱い、晴れた日に白でなく黒のTシャツを着ることを考えてごらん下さい)³⁾

<http://modernistcuisine.com/2012/12/the-physics-of-coffee-cream/>

- ⑤転義〈汚れた〉：概念 {手・衣服などが垢や汚れでおおわれて汚らしい，黒ずんでいて不潔な感じがする}

(25) Cleaning dirty feet that are **black** due to oil will require a few key tools, like lemon juice.
(油で汚れて黒くなっている足をきれいにするにはいくつか主要な道具が必要です，例えばレモン果汁のような)

https://www.youtube.com/watch?v=wqY_zOav7Ag

- ⑥転義〈不機嫌な〉：概念 {人の表情・気分・声の調子などについて，嫌悪感や憎悪にあふれていて不愉快そうである}

(26) It was a bad day at Forever 21, Somerset 313 branch. After I chose my item, I wanted to do the payment, but nobody was at the cashier counter. I waited for around 2 min., got a staff who came back but used her back side to face me. I called 3 times, “Excuse me.” Then she came to do my bill, but still used a **black** face. I don’t think I owe this staff money. Why do most of them always use **black** face to us? (Forever 21 のサマセット 313 番通り店でいやな一日でした。品物を選んだ後，お金を払いたかったのですが，レジには誰もいませんでした。2分ほど待ち，戻って来た店員をつかまえました，背中を向けて対応したのです。私は「すみません」と3回呼びかけました。やっとその店員は勘定をしにきましたが，なおむっとした顔をしていました。私はこの店員にお金を借りるわけではありません。どうしてこの店のほとんどの店員はいつも不機嫌な顔をするのでしょうか)

https://www.consumeraffairs.com/retail/forever_21.html?page=8

- ⑦転義〈邪悪な〉：概念 {人間の性癖や行いについて，邪まな，不道德な，不正な，非合法的な}

(27) Most people are sensitive to the emotional pain of others, but the **black**-hearted and heartless person have themselves as the center of their world and as for everyone else, whatever they are going through is just a nuisance to them. (たいていの人は他人の感情の痛みに敏感ですが，悪意があり薄情な人は自分を世界の中心に置いていて，あらゆる他人に対して，自分が経験することはたとえ何であっても不快なものに過ぎません)

<https://answers.yahoo.com/question/index?qid=20131209170705AA47DsL>

- ⑧転義 (ジョークなどが) 〈不謹慎な〉：概念 {演劇，冗談，思想などについて，悲劇的でありながら滑稽でもある，不気味で恐ろしいが，笑わざるを得ない状況に陥ってしまう}

- (28) a. A **black** comedy (or dark comedy) is a comic work that employs farce and morbid humor, which, in its simplest form, is humor that makes light of subject matter usually considered taboo. (ブラックコメディ (またはダークコメディ) とは、滑稽で陰鬱なユーモアを用いたコミカルな作品で、最も簡潔な形式では、それは通常タブーと考えられるテーマを軽く扱うユーモアです)

https://en.wikipedia.org/wiki/Black_comedy

- ⑨転義〈絶望的な〉：概念 {将来や出来事などについて、希望が持てないような悪い状況にあり、不幸な悲しい感じにさせる}

- (29) Carbon Tracker Initiative (CTI) has produced a risk analysis of the global coal industry and concludes its future looks **black**. (カーボン・トラッカー・イニシャチブ (CTI) は、グローバル石炭産業のリスク分析を行い、将来の見通しは暗いと結論付けました)

<http://www.energypost.eu/king-coal-dethroned-future-looks-black/>

3.2 “black”の意味拡張の動機付け

メタファーによる拡張：①基本義〈黒色の〉⇒②転義〈真っ暗な〉，③転義〈黒人の〉，④転義〈コーヒー・紅茶が〉〈ブラックの〉，転義⑤〈汚れた〉，⑥転義〈不機嫌な〉，⑦転義〈邪悪な〉，⑧転義〈ジョークなどが〉〈不謹慎な〉，⑨〈絶望的な〉

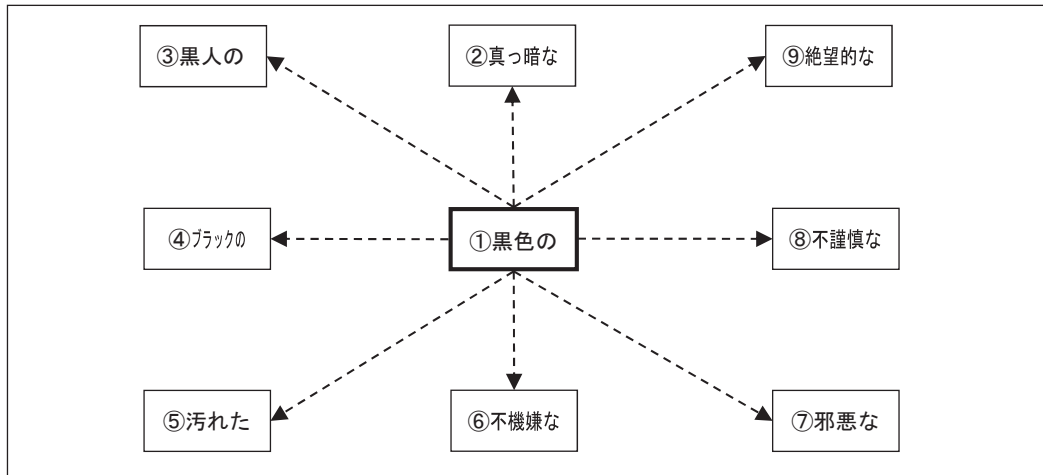
“black”の基本義からの意味拡張の主要な認知的動機付けはメタファーである。まず、基本義〈黒色の〉から転義〈真っ暗な〉への意味拡張において“black”は「色彩」ではなく「夜という時間帯の状況」を描写している。基本義〈黒色の〉から転義〈黒人の〉への意味拡張では“black”は「色彩」ではなく「文学作品などの担い手」を表している。基本義〈黒色の〉から転義〈ブラックの〉への意味拡張では“black”は「色彩」ではなく「コーヒーや紅茶にミルクや砂糖などの添加物が入っていない状況」を描写している。基本義〈黒色の〉から転義〈汚れた〉への意味拡張では“black”は「色彩」ではなく「手足や衣類などの不潔さ」を描写している。基本義〈黒色の〉から転義〈不機嫌な〉への意味拡張で“black”は「色彩」ではなく「人の気分」を描写している。基本義〈黒色の〉から転義〈邪悪な〉への意味拡張で“black”は「色彩」ではなく「人間性」を描写している。基本義〈黒色の〉から転義〈不謹慎な〉への意味拡張で“black”は「色彩」ではなく「喜劇などの性質」を描写している。最後に、基本義〈黒色の〉から〈絶望的な〉への意味拡張で“black”は「色彩」ではなく「(将来の)展望や状況」を描写している。いずれも「色彩」以外の意味領域への拡張である。したがって、これらの意味拡張は「黒」という色彩にまつわるイメー

ジに基づいた（共感覚）メタファーであるといえる。

3.3 “black”の意味のネットワーク

ここまでの分析に基づいて，“black”の意味拡張のプロセスを放射状カテゴリーの形に図示すると次のようになる。なお、破線矢印はメタファーを表す。

図3 “black”の放射状カテゴリー



4. まとめ

本論は、日本語「クロイ」と英語“black”について、それぞれの多義構造と意味拡張の認知的動機付けについて分析した。その結果、明らかになったのは次のようなことである：

- ①「クロイ」と“black”は、それぞれ多義語であり、放射状カテゴリーを構成する。
- ②「クロイ」と“black”の意味拡張の認知的動機付けとしては、メタファーが主要な役割を果たしている。
- ③「クロイ」にだけにみられた意味拡張の動機付けはシネクドキである。
- ④「クロイ」と“black”のそれぞれ意味拡張の起点（基本義）として〈黒色の〉を仮定できる。
- ⑤「クロイ」と“black”に共通する転義として〈汚れた〉〈邪悪な〉がある。
- ⑥「クロイ」に特有な転義として〈濃色の〉〈日焼けした〉〈不正な〉〈不吉な〉がある。
- ⑦“black”に特有な転義として〈真っ暗な〉〈黒人の〉〈ブラックの〉〈不機嫌な〉〈不謹慎な〉〈絶望的な〉がある。

「クロイ」と“black”の意味拡張の方向性の特徴として、両者ともネガティブな悪い意味への転

義が多い傾向がある。「黒」という色調にまつわるイメージが大きな要因となっている可能性があるが、それではなぜ「黒」に対して「悪いイメージ（意味）」が結び付きやすいのか、という問いに対して即答することは難しいので今後の検討課題としたい。

注

- 1) 「クロイ」の意味のうち、(7h)の「玄人である。その道に熟練している」については、あまり一般的でなく適当な用例も見つからなかったため除外する。
- 2) 本論では、意味の記述に2つのレベルを設ける。一つは、「語義」で〈…〉で囲んで表す。もう一つは、「概念」で{|…|}で囲んで表す。「語義」と「概念」は、それぞれ語の意味の一側面を構成する。「語義」は、語の意味をなるべく簡潔に、ワンフレーズで収まるようにまとめた記述である。「概念」は、語の意味をなるべく、具体的に、詳細に、百科事典の意味をも交えて、まとめた記述である。
- 3) “black coffee”に対応する日本語は「ブラック・コーヒー」であって「クロ（黒）・コーヒー」や「チャ（茶）・コーヒー」とは言えない点が興味深い（皆島 2006）。

参考文献

- Dirven, René and Marjolijn Verspoor (1998) *Cognitive exploration of language and linguistics*. Amsterdam: John Benjamins.
- Labov, William (1973) The boundaries of words and their meanings. In: Charles-James N. Bailey and Roger W. Shuy (eds.) *New ways of analyzing variation in English*, 340-373. Washington: Georgetown University Press.
- Lakoff, George (1987) *Women, fire, and dangerous things: What categories reveal about the mind*. Chicago: The University of Chicago Press.
- 初山洋介 (2002) 『認知意味論のしくみ』(シリーズ・日本語のしくみを探る⑤) 東京：研究社。
- 初山洋介・深田智 (2003) 「意味の拡張」松本曜 (編) 『認知意味論』(シリーズ認知言語学入門第3巻) 73-134. 東京：大修館書店。
- 皆島博 (2006) 「日英語の基礎色彩語彙－「クロ」と“black”の語彙分析－」城生佰太郎博士還暦記念論文集編集委員会 (編) 『実験音声学と一般言語学 城生佰太郎博士還暦記念論文集』335-347. 東京：東京堂出版。
- Rosch, Eleanor (1975) Cognitive representations of semantic categories. *Journal of Experimental Psychology: General* 104: 192-233.
- 佐藤信夫 (1992) 『レトリック感覚』 東京：講談社学術文庫。
- 瀬戸賢一 (1997) 「第Ⅱ部 意味のレトリック」巻下吉夫・瀬戸賢一『文化発想とレトリック』(日英語比較選書①) 94-177. 東京：研究社。
- 瀬戸賢一 (編) (2007a) 『英語多義ネットワーク辞典』 東京：小学館。
- 瀬戸賢一 (2007b) 「メタファーと多義語の記述」楠見孝 (編) 『メタファー研究の最前線』31-61. 東京：ひつじ書房。
- Sweetser, Eve (1990) *From etymology to pragmatics: Metaphorical and cultural aspects of semantic structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 高橋英光 (2010) 『言葉のしくみ－認知言語学のはなし』 札幌：北海道大学出版会。
- Taylor, John R. (1995) *Linguistic categorization: Prototypes in linguistic theory*. Oxford: Clarendon Press.
- 辻幸夫 (2002) 『認知言語学 キーワード辞典』 東京：研究社。

Wittgenstein, Ludwig (1978) *Philosophical investigations* (trans. G.E.M. Anscombe). Oxford: Basil Blackwell.

参照辞典

『大辞林』（三省堂，第三版）

『大辞泉』（小学館，第二版）

『広辞苑』（岩波書店，第五版）

『新選国語辞典』（小学館，第十六版）

『ルミナス英和辞典』（研究社，オンライン版）

MacMillan English Dictionary for Advanced Learners (MacMillan, 第二版)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (Oxford University Press, オンライン版)

例文検索ウェブサイト

<https://www.google.com/>